

事務事業マネジメントシート(令和 2年度実績と令和 3年度計画)

令和 3 年 4 月 2 6 日 更新

事務事業名		病児・病後児保育事業				☐ マニフェスト関連 ☐ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	2 福祉の健康				所属部	健康福祉部	課長名	衛藤 文明
	施策	4 子育て支援の充実				所属課	子育て支援課	担当者名	中島 仁
	施策の柱	16 子育てと仕事の両立支援				所属班	子ども家庭班	(内線)	1185
予算科目		会計一般	款 3	項 2	目 4	事業連番 10579	根拠法令	合志市病児・病後児保育事業実施要綱	
終了、開始年度		☐ 2年度で終了 ☐ 2年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	・病児・病後児の預かり保育を実施(合志市社協に事業委託) ・原則として合志市在住の生後2箇月から小学校3年生までの児童等であって、当面症状の急変は認められないが、病気の回復期には至っていない児童等又は病気の回復期にある児童等で、かつ、保護者が勤務等の都合により家庭での育児が困難な児童等を対象に受入れを実施している。 現在、合志市社協へ委託し、ふれあい館の「すこやか」と輝き館の「ひかり」の2箇所で開催している。それぞれの施設設備等の関係で受入れ定員が少ないため、風邪等の流行する時期によっては受入れできない場合もある。 ・病児・病後児保育事業での預かり乳幼児の突発的な症状に対する診察、処置及び預かり指導に対処するために嘱託医を委嘱している。 ※以前は菊陽町に委託を実施していたが、平成21年度11月から南ヶ丘福祉センター輝き館が開設されたため、平成21年度から委託を取りやめた。 ※平成28年度から「熊本市及び合志市における連携中核都市圏の形成に係る連携協約」における病児・病後児保育施設の相互利用にかかる負担金に関する協定書により相互利用を実施中 ※令和元年度末より、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数が減っている。
【業務の流れ】	①事業打合せ ②事業施行伺い ③事業委託契約伺い ④委託契約書締結 ⑤委託料請求書受付、審査 ⑥委託料の支払 ①毎日の病後児保育利用児童の健康管理指導助言 ②突発的な症状に対する診察、処置 ③職員、保護者への指導研修
【主な予算費目】	委託料
【意見や要望】	インフルエンザ等の流行時期になるとベッド数が足りなくなり、受入できな状況であるため、ベッド数の増加やカ所数の増加の要望がある。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 2年度実績(2年度に行った主な活動)(DO) 生後2ヶ月から小学校3年生までの病児または病児回復期の児童等の預かりをすこやか及びひかりの2ヶ所で行った。 延べ人数 すこやか(ふれあい館内)251人 ひかり(南ヶ丘福祉支援センター内)35人		3年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 生後2ヶ月から小学校3年生までの病児または病児回復期の児童等の預かりを行う。
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア: 病児・病後児保育の実施施設数	箇所	受託事業者の人員費増加による委託料の増
イ: 病児・病後児保育の登録者数	人	
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)	②対象指標(対象の大きさを表す指標)
生後2ヶ月から小学校3年生までの病児または病児回復期にある児童で、病児・病後児保育を利用した児童	人	→ ア: 小学校第3学年までの児童数
		→ イ:
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)	③成果指標(意図の達成度を表す指標)
・子育てと仕事の両立ができる。 ・利用児童の健康を適切に管理できる。	人	→ ア: 病児・病後児保育の利用者数
	人	→ イ: 熊本市の施設利用者数(相互利用)
*③成果指標設定の理由と 3年度目標値設定の根拠		総トータルコスト
利用希望にどれだけ対応できているかを指標とするため、利用者数として設定した。また、ベッド数が限られており、風邪等の流行によっても大きく左右されることから、前年度並みで設定した。		全体計画
		～ 年度
		0

(2)各指標・総事業費の推移											
		単位	30年度 実績(決算)	31年度 実績(決算)	2年度 目標(当初予算)	2年度 実績(決算)	3年度 目標(当初予算)	4年度 予定	5年度 見込	6年度 見込	
① 活動指標	ア	箇所	2	2	2	2	2	2	2	2	
	イ	人	3,155	3,426	3,500	3,640	3,550	3,600	3,650	3,700	
② 対象指標	ア		7,718	7,697	7,800	7,764	7,850	7,900	7,950	8,000	
	イ										
③ 成果指標	ア	人	934	712	1,000	286	1,000	1,000	1,000	1,000	
	イ	人	46	48	40	54	40	40	40	40	
投資 入費 量	事業 費内 訳	国庫支出金	千円	6,901	9,061	6,960	8,018	7,598	7,666	7,666	7,666
		都道府県支出金	千円	6,782	6,017	6,960	5,894	7,598	7,666	7,666	7,666
		地方債	千円								
		その他	千円	2,345	1,939	2,043	780	1,000	1,000	1,000	1,000
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	6,351	5,601	6,935	8,517	7,678	7,668	7,668	7,668
	(A) 事業費計	千円	22,379	22,618	22,898	23,209	23,874	24,000	24,000	24,000	24,000
		(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0
	人件 費	正規職員従事人数	人	3	1	3	2	4	4	4	4
		延べ業務時間	時間	42	40	70	120	70	70	70	70
		(B)人件費計	千円	165	158	278	473	278	278	278	278
トータルコスト(A)+(B)		千円	22,544	22,776	23,176	23,682	24,152	24,278	24,278	24,278	

事務事業名	病児・病後児保育事業	所属部	健康福祉部	所属課	子育て支援課
-------	------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部（CHECK）

*原則は 2年度的事後評価、ただし複数年度事業は 2年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	① 2年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少している。
	② 3年度目標達成見込み	☐ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☒ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 新型コロナウイルス感染症の影響により利用を制限していることや、利用控えもあると思われ、利用者が戻るには時間がかかると考えられる。
有効性評価	③ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】 育の定員枠があるため、利用申込が多い場合は利用できないことがある。ベッド数の増加や施設の増加ができなければ今のところ向上の余地はない。
	④ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある（具体的な手段、事務事業） ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 類似事業がないため他に手段がない。
効率性評価	⑤ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 経費のほとんどが人件費であるため、国の示している基準内の最低経費である現在の経費から削減余地がない。
	⑥ 人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 最少人員で行っており、削減余地がない。
公平性評価	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 国の基準で受益者負担を行っており、適正である。
役割分担評価	⑧ 行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 国が子育て支援事業として推進している事業の一つであるため、役割分担は適正である。

3 評価結果の総括（CHECK）

すこやか（定員6ベッド）及びひかり（定員3ベッド）で実施し、安全安心な病児保育が実施できた。

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）			(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																										